

まえがきから

これは冤罪事件である。

犠牲者は、岩川徹と二階堂甚一の2人。

岩川は、かつて日本一の高齢者福祉を築いたことで有名な秋田県旧鷹巣町（現・北秋田市）の元町長だ。もう一人の、二階堂甚一は旧鷹巣町に隣接する旧合川町でつましく暮らすごくごく平凡な住民である。

旧鷹巣町と旧合川町は、合併して北秋田市になった。

2009年4月の北秋田市長選挙に立候補した岩川にとって、旧合川地区は全く地理不案内な土地だった。

そこで二階堂が運転手兼道案内として雇われた。月15万円の報酬が2回、延べ2カ月分が支払われた。

これが公選法違反の「買収」とされた。

岩川と二階堂は2009年7月13日に逮捕。

「岩川は二階堂の票を買い、さらには票の取りまとめを二階堂に依頼した」というのが逮捕容疑だった。

二階堂は、自分の裁判の一、二審で争わなかった。

一見、無気力相撲に見えるのだが、違う。

彼は相撲のなんたるかもわからずに土俵に引きずり出され、プロの相撲取りたち、つまり刑事や検事や裁判官や国選弁護士から袋叩きに合って、土俵上で失神してしまったのだ。

黙秘を通した岩川は、368日も拘置所に監禁された。その間に、二階堂の審理は超スピードで進み、岩川が娑婆に戻った時には、二階堂は控訴審で有罪判決を受けていた。そして上告も2カ月後に棄却されて、二階堂の有罪が確定している。

私は、岩川裁判の一審、二審の全てを傍聴した。

法廷での応酬を聴く限り、岩川側の圧勝だった。

傍聴人の誰もが、岩川の無実を信じただろう。

しかし、一、二審の裁判官は、岩川無罪を立証する証言や証拠の全てを葬って、岩川に有罪判決を下した。



目次から

まえがき

第一章 影の支配者

事件の背後に県内最大の土建業者「佐藤庫」（サトウクラ）の影。佐藤庫は旧合川町のキングメーカーの絶対的支配者。岩川、二階堂が逮捕される6日前の2009年7月7日、佐藤庫の社長は地元の宴会に北秋田署署長を従えて現れた。

第二章 黙秘します

証拠は、アルバイト料を受け取った二階堂甚一の膨大な量の供述調書だけ

第三章 拘留368日の屈辱

弁護士が差し入れた二階堂調書を読んで、警察・検察の描くストーリーの出鱈目を知った

第四章 五重苦を背負って

この事件の有力証拠は、二階堂の自供調書のみ。東京の長男の覚せい剤事件。二男の統合失調症発病。勤務先倒産による失職。自己破産。離婚。こんな五重苦の真っ最中に警察の過酷な取り調べをうけて、警察・検察の意のままに膨大な自供調書を残した。岩川が拘置所にいる間に、二階堂の裁判は争いもなく超特急で進んだ

第五章 孤立無援の法廷

二階堂のさびしい一審法廷。頼みの国選弁護人も二階堂を罪人扱い

第六章 親友を売った男

運転手として雇われた二階堂は、幼馴染の親友・澤藤孝志に心を許して何でも話した。澤藤はその情報を脚色して岩川のライバル陣営の後援会に報告。そして、捜査が始まった。その澤藤が検察側証人として岩川裁判の法廷に登場し、検察を罵倒したわけは。。

第七章 検察ストーリーの無理

検察ストーリー「2月16日、米内沢ローソン駐車場で、二人しかいない車の中で15万円を渡した」という説を覆す数々の証拠

第八章 悔し涙

拘置所の岩川は、二階堂とのアルバイト契約の場所と日にちを、懸命に思い出した。検察ストーリーの虚構を証明する証人を見つけた。ところが。。

第九章 メフィストフェレスたち

冤罪犠牲者、厚生労働省の村木厚子元局長が語った
密室魔術の現実と提言 30 カ条

第十章 弁護人が語る岩川裁判

あとがき